

# 14

## ■砂丘と松林に囲まれた水鳥の聖域

### 佐 潟 (新潟市)

■環境：湖沼  
 ■対象：一般  
 ■期間：9月下旬～  
 4月上旬

ラムサール条約に登録された佐潟は昔から水鳥の生息地として保護され、ガン、カモ、ハクチョウ類の越冬地になっている。冬季はオジロワシをはじめ大型のワシ・タカ類も飛来する。

#### 〈県内初のラムサール条約指定地〉

佐潟は1996年1月30日に国内で10番目、新潟県では初めてのラムサール条約登録湿地に指定された湖沼である。

湖水面積は44ha、周辺地域を含めて76haが登録の対象となっている。早くから鳥類の越冬または繁殖地として注目され、1981年3月国設鳥獣保護区に指定され、環境庁の観察舎が設置されている。

観察広場には木製タイルが敷かれ柵や東屋も設置され、ゆっくり観察できる。



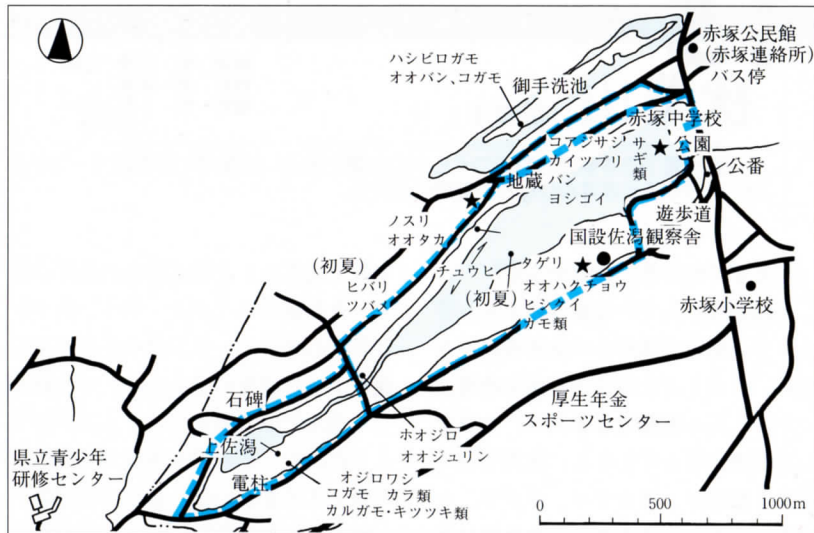
湖面を埋める水鳥

コウノトリ、サカツラガン、シマアジ、オオワシ、クロツラヘラサギ、セイタカシギ、ヤツガシラなど、珍しい鳥種が訪れた記録もまだ新しい。

#### 〈秋～冬はガン・カモやワシ・タカの競演〉

県道に沿った駐車場に車を止めると前面に角田山を背にして伸びた湖面いっばいにハクチョウ、ヒシクイ、マガモ、コガモ、オナガガモなど十数種のガン・カモ類が翼を休めている。ヒシクイやハクチョウは採餌のため早朝に飛びたつ。頭上低く通過する様は息をのむ壮観である。時折オジロワシ、オオタカ、チュウヒ、ノスリなどが平穏をかき乱すのも見物だ。

観察舎まで歩いて観察を深めたら戻ってもよいが、先を進んで中道コース、全周コースを行くも良く、アシ原でカシラダカやオオジュリン、木立の間でアオゲラなどを探す楽しみがあり、御手洗潟に回って駐車場に戻る



ことができる。

#### 〈春～夏は花の中で繁殖に大忙し〉

ウグイスのさえずりが上手になるころ、ガン、カモに代わって小鳥たちがやってくる。オオヨシキリのにぎやかな声が響くアシの陰でカイツブリ、バン、オオバンがヒナを育てコアジサシがダイビングを繰り返す。やがて蓮の葉が湖面を覆いオニバスが棘(とげ)のある葉を広げるころ、ヨシゴイが蓮の葉の柄につかまって餌(えさ)を狙い、サギたちがゆったりと舞を披露する。

ピンクの蓮の花びらが落ち、秋風が湖面を渡るとまたカモたちがやってくる。

(伊藤定市)

#### ×モ

**交通** JR内野駅からバスで赤塚連絡所下車、または越後赤塚駅から徒歩30分。

☐ 東側の主要地方道新潟・寺泊線から入ってすぐのところ。トイレはPから西へ橋を渡ったところに1カ所。

**探鳥会** いがた野鳥の会・新潟県野鳥愛護会共催の探鳥会が1月。県青少年研修センター主催の親子の集いが2月。

問い合わせ先：いがた野鳥の会事務局

☎025-266-8972

野鳥愛護会事務局愛鳥センター

☎0254-41-4500/4501

県青少年研修センター

☎0256-77-2111

**道草** 四ツ郷屋浜～越前浜でシギ・チドリの観察。角田山登山。